論文題目・（ゴシック体12ポイント）・・・・・・・・・

**題目はセンタリングする**

（1行空ける）

**タイトル部分のマージンは10mm程度余分に**

**タイトル部分のマージンは10mm程度余分に**

Title of Paper Title of Paper Title of Paper (Times New Roman 10.5ポイント)

（1行空ける）

地盤太郎 Taro ZIBAN （地盤大学大学院工学研究科）

土質花子 Hanako DOSHITSU （土質建設(株)技術研究所）

（1行空ける）

日本語題目を最上段の1行あけて2行目から12ポイントのゴシック体で書いて下さい．続けて，英語題目を日本語題目との間に1行あけて，10.5ポイントのTimes New Romanで書いて下さい．両題目ともセンタリングして下さい．英語題目の後に1行あけて，日本語と英語表記の著者名，括弧書きの所属名を順に並べて書いて下さい．著者名・所属名は10.5 ポイントの明朝体またはTimes New Romanとします．続けて 1行あけて論文要約を7行以内で9ポイントの明朝体で書いて下さい．その後 1行あけて，キーワード(6個以内)とIGC(3個以内)を10ptの明朝体で書いて下さい．以上のタイトル部分のマージンを左右余白20mmから10mm程度余分に取って両端に揃えて下さい．

（1行空ける）

キーワード：AAA，BBB，CCC，DDD，EEE，FFF （IGC：XXX，YYY，ZZZ）

1．はじめに（←半角数字，10ポイントのゴシック体）

左余白20

ミリ

用紙にはA4判(210mm×297mm)の白紙(上質紙が望ましい)を使用して下さい．1行当たりの文字数は52字(１段幅で25字)，1ページ当たりの行数は51行程度を標準とします．本文は2段組，段組間は6 mm程度とします．各段落の1文字目は1マス下げて下さい．本文は9ポイントの明朝体を標準とします．和文の場合でもカンマ｢，｣とピリオド｢．｣を用いることとし，句読点｢、｣と｢。｣は用いないで下さい．第1レベルの見出しは10ポイントのゴシック体とし，本文は見出しの後に1行あけてから書き出して下さい1), 2)．

タイトル部分の記述に関して，英語表記の著者名の姓はすべて大文字にして下さい．また，所属名で，例えば株式会社は(株)などに略記して下さい．

英文で論文を執筆される場合には編集委員会までお問い合わせ下さい3)．

（2～3行空ける）



2．第1レベルの見出し

(1行空ける)

2.1 第2レベルの見出し（←半角数字9ポイントのゴシック体）

第2レベル以下の見出しは9ポイントのゴシック体にして，本文は見出しの後に1行あけずに書き出して下さい．第2レベルの見出し番号は2.1や3.1のように付けて下さい．2-1，3-1のような表記を用いないで下さい．

　出来るだけ第2レベルの下に本文が続くように調整してください．

式番号は右詰めにし，式と式番号の間にリーダー「・・・・・」をつけないで下さい．

図-1　粘性減衰系の自由振動

（9ポイント，図番号まではゴシック体，説明文は明朝体で）

右余白20ミリ

 (1)

3．図表のレイアウト

ページの最下段に章節の見出しがこないようにして下さい．そのようなときは空白行を加えて，本見本のようにコラムの最上段か次のページの先頭から書きはじめて下さい．

図表番号は原稿全体を通じて，通し番号をつけて下さい（たとえば，図-1，表-2，写真-1のように)．図および表のキャプションはそれぞれ図面の下側および上側につけて下さい．図面と本文の間には適当な余白を作って下さい．図面の大きさに十分ご留意の上，図表はなるべく用紙の上側あるいは右側にまとめて配置して下さい．

最終原稿はそのまま印刷されますので，印刷に耐えうる原稿品質を確保して下さい．特に，画像は鮮明度にご注意下さい．

図表を他の文献等より引用される場合は著作権の侵害にならぬようご配慮下さい．

カラー印刷にする必要があれば，編集委員会までご連絡下さい．なお，カラー印刷の場合，別途ページ数に応じた追加料金がかかります．

4．箇条書き

1. 半角の両括弧および数字を使用して下さい．なお，2行目からは書き出しと同じ位置にぶら下げを行って下さい．
2. 次の行は行を空けずに続けて下さい．

謝辞（←9ポイントのゴシック体）

謝辞は本文と同じ9ポイントの明朝体で記述して下さい．

参考文献（←9ポイントのゴシック体）

1. 著者名：論文題目，雑誌名(書名)，巻，号，ページ数，発行年(西暦，月は不要)．（←9ポイントの明朝体またはTimes New Roman，引用ページが単数の場合p.○，複数の場合pp.○-○で表記，発行年の後をピリオド｢.｣で結ぶ）
2. 地盤太郎，土質花子：地盤工学と土質力学，地盤と建設，Vol.20，No.1，pp.1-10，2002．
3. Jiban, T., Doshitsu, H., and Kiso, K.: Geotechnology and soil mechanics, *Ground Engineering*, Vol.20, No.1, p.245，2002.

(2015年●月●日　受付)